

久斗山地区公民館だより



令和2年
11月号

26日発行

久斗山地区公民館

ご挨拶

今月は暖かな小春日和のいい天気が続いています。ここ2年ほど暖冬で雪が少なかったけど、今年はどうでしょう？山の紅葉もそろそろ終わり、落葉となっています。これから寒い冬を迎えることを思うと、少し憂鬱な気分になりますが大雪にならない程度に雪が積もらないと、何か物足りない気持ちになります。雪が降ればスキーなどの楽しみもあり、自然のためにも必要です。風邪やインフルエンザ、さらに新型コロナの感染にも十分気をつけて冬を乗り切りましょう。

【自然のロープ、蔓（つる）を使って籠（かご）作り】

木に巻きついたり絡みつくツル植物は山の邪魔者です。中にはアケビやヤマブドウのように、秋に甘い実をつける蔓もありますが、樹木にとっては困ったやつです。でも、昔から吊り橋の材料など、自然のロープとして利用してきました。今月、14日に開催された久斗山自然教室は、つるを使ってかごを作りました。参加者は12人（大人4、子供8）でした。

開会のあと、まずは近くの山裾でつる採取をしました。フジやアケビなどの蔓植物が木に巻きついており、力を込め引っ張りますが、なかなかしぶとい。できるだけ長めに採り、輪に巻いて持ち帰ります。必要な量を採取する時間が無いので、前日にとってきてある材料を使いました。まずは、少し太い蔓を3本ずつ十字に合わせて細い蔓でくくって縦糸にします。3+3×2で12本の縦糸のうち1本を切って奇数にします。縦糸を放射状に整えながら、細目の蔓を横糸にして互い違いに巻きつけていきます。少しずつ蔓でクモの巣ができてきました。そのままどんどん巻いていけばお皿になりますが、ある程度の大きさになれば縦糸を曲げて立ちあげていき、籠状にしていきます。縁を折り曲げて、好みで持ち手を付けたり世界に一つしかないオリジナルの籠が出来上がりました。小さな子どもには

大人の手助けが必要でしたし、少し時間不足でしたが、なんとかみんな蔓籠が完成しました。



完成したつる籠を前にして、参加者みんなで記念撮影

【山陰海岸ジオパーク最高峰、扇ノ山（1,310m）登山の勧め！】

山陰海岸ジオパークは丹後半島の経ヶ岬から鳥取県の青谷まで東西120kmあり、北は豊岡市竹野町の猫崎半島、南は香美町小代の小代溪谷までの幅30kmの範囲が含まれます。その中で最高峰となるのが、岸田川の源流にある標高1,310mの扇ノ山です。山頂は鳥取県になります。登山コースは幾つかありますが、兵庫県側からは上山高原と畑ヶ平高原の二つあります。上山高原からのコースは標高1,000mの小ヅッコ登山口まで車で行き、そこから避難小屋を経て、ブナ林の中のゆるやかな登りです。片道3.2km、約2時間で山頂まで登ることができます。山頂には2階建ての避難小屋があり、窓から南側に氷ノ山、西は鳥取の市街地や、条件が良ければ遠く大山が望めます。



小ヅッコのブナ林



多くの登山者で賑わう扇ノ山山頂



畑ヶ平農園からは扇を立てたような扇ノ山山頂が望める

【久斗川の河川改修工事が完了】

久斗山の集落内を流れる久斗川に土砂が堆積して川床が高くなっており、増水すると民家に被害が及ぶ危険性が高くなっていました。この度、河川管理者の新温泉土木事務所より河川改修工事が発注され、請負った山村建設工業(有)さんが、先日、土砂撤去の工事を終えました。村中橋の付近から下流の河床が約0.5m下がりました。工事により、480m³(トラック120台分)の土砂が



取り除かれたそうです。これで川床もスッキリし、大水になっても安心です。



【多面的機能保全で宮谷農道コンクリート舗装】

多面的機能保全(農地・水・環境)の助成金により、今年度は宮谷農道のコンクリート舗装が施工され、18日に生コン打設が行われました。上から1工区(15m)、2工区(6.5m)、3工区(11m)の3ヶ所を施工しています。少しずつですが、これまで石ころのガタガタ道だったところが舗装されて通やすくなりました。



【ジョロ虫が多いと大雪!?】

晩秋、天気がいい小春日和の暖かい日には、こいつが家の中に入ってくる。“じょうむし”と呼ばれるが、正式な和名はクサギカメムシ。果樹や豆の害虫だが、掴むと悪臭を放つのが一番嫌われる点だ。香水のようにいい匂いなら好かれたかも?こいつが多い年は大雪になるという迷信がある。今年はどうかな?



○令和2年 12月の行事

- 13日(日) 久斗山自然教室「芋煮と冬の里山観察会」(10:00~13:00)
- 20日(日) 「上山高原ふるさと朝市・感謝デー」(8:30~)上山高原エコミュージアム
- 25日(金) クリスマス
- 31日(木) 大晦日



クマの爪痕が生々しい柿の木

引き続き、クマに注意!

柿の実が熟して甘くなるこの頃、夜になると集落周辺の柿の木に、頻繁に熊が登って食べているようです。冬前に餌を食べるため、野生動物の行動がいっそう活発化しており、民家の周辺に出没することが多くなっています。夜間の外出は危険です。極力、控えましょう!



ベニバナボロギクの花

今月の野草 ベニバナボロギク

シカの食害でほとんど裸地になった山裾にひょろっと伸びて、先端にお化粧に使う刷毛に似た紅色のふわふわがっぱい付いていました。これが花?綿毛になつたものもありました。アフリカ原産の帰化植物だそうです。同じような仲間にはグランドボロギクってのがいます。どれもシカが食べないので、最近、とても増えています。

かってに昔話 女淵の大アマゴ (第二話)

作、いつこう

それから、女淵の近頃は女淵に毎日通うようになり、主の姿を見かけるようになった。主の背は深みがかった黄緑色をしており、周囲の木立の色に融け、よく目を凝らさないと見分けがつかない。しかし身をひるがえす一瞬、体の側面に小判型の青い斑紋の連なりが見え、さらに赤い斑点がちりばめられていた。それは天魚(アマゴ)と呼ばれる魚で、その大きさは優に二尺(六十センチ)以上ありました。溪青はいつしか紙の束と絵筆を携えるようになり、主の姿や女淵の周りの景色を写生するようになった。ある夏の夕暮れ、淵の上を飛び交う水棲昆虫の成虫にむかって主の大アマゴが水面から躍り出たのです。その時、木立の間から夕陽が差し込み、耀く水しぶきと力強く躍動する魚影を光で包み込みました。その美しさは衝撃的でした。それを目に焼き付けた溪青は、すぐに家へ帰り、日本画の画材一式を取り出すと、一心不乱になって描画に取り組み始めたのです。それから二月ほど経ったころ、アケビ取りで女淵の近くに来た子ども達が、淵にうつ伏せで浮いている人を発見し、大騒ぎになりました。大人達が引き上げましたが、すでに息を失っていました。検視官が身元を確認したところ、それはあの溪青でした。警察が支流のそばに建つ溪青の家に入った時、散らばった画材の中で、淵から躍動するアマゴの絵を目にしました。それは、今にも絵から飛び出てきそうな生命力を帯びていました。(つづく)